



講演会

羽ばたけ、 家事使用人の 少女たち

STOP! 児童労働

(Sat.)

2017年6月3日

14:00~16:00

会場：日本基督教団 東北教区センターエマオ

(仙台市青葉区錦町 1-13-6)

参加費：300円



講演者

マフザ・パルビン氏

シャプラニール・ダッカ事務所職員。プログラム・オフィサーとして、家事使用人の少女支援事業及びフェアトレード事業を担当。

シャプラニール=市民による海外協力の会は、他人の家で家事労働をする少女たちの子どもとしての権利を守るため、2006年から少女たちが学び遊ぶ場を提供する等の支援活動を続けています。家事をして働く多くの少女（家事使用人）は親元を離れ、見知らぬ雇用主の家で、住み込みで働いています。バングラデシュには、このような少女が約33万人も存在するとされています。

今回は、シャプラニールのダッカ事務所で家事使用人の少女の支援事業を担当する、マフザ・パルビン氏をバングラデシュから招き、少女たちがどのような生活をしているのか、なぜ支援を必要としているのかなど、「家事使用人の少女たちの今」に注目し、現場の生の声を届けます。（講演には通訳がつきます。）

お問合せ・お申込み：シャプラニール仙台・ボンドウの会 原 容子

TEL：090-3759-5904

E-mail：yokohara0131@jcom.home.ne.jp

website：http://www.shaplaneer.org



Bangladeshには家事使用人として働く少女たちが約 33 万人も存在するとされています。少女たちは小さい頃から人の家で働かされ、学校に通う時間、遊びの時間も与えられていません。親元を離れ、見知らぬ雇用主の家で住み込みで働く少女も多くいます。

シャプラニールでは Bangladesh 首都ダッカで2つのセンターを運営し、基本的な読み書きや家事の仕方、生活改善に必要な知識の習得等の支援をするほか、少女たちの現状を広く Bangladesh 社会に訴えていく活動を行っています。

<講演者 マフザからのメッセージ>

家族と離れて雇用主の家で暮らす少女たちは、自分の気持ちを吐露することさえできません。雇用主の中には少女の体調など気にせず仕事を強要し、暴力的な人もいます。私は一児の母として、このような光景を見ると胸が張り裂けそうになります。みなさんの温かい気持ちやご支援が、世界から働く子どもたちをなくすことにつながると私は信じています。

日本で皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

< その他の開催地 全国では 12 会場 >

日時	開催地	会場
6月 4日(日) 午後	福島県	未定
6月 5日(月) 18:30-20:30	福島県いわき市	もりたかやアートスペース
6月 8日(木) 18:30-20:30	北海道札幌市	かでの2.7
6月 10日(土) 14:00-16:30	東京都港区	ウェスレー・ファウンデーション セミナールーム205
6月 11日(日) 13:30-15:30	栃木県宇都宮市	オリオンACプラザ



シャプラニール＝市民による海外協力とは

1972年に設立された、特定の宗教、政治、企業、団体には属さない、日本の国際協力NGOです。2001年8月、特定非営利活動法人。行動する市民がつながり合うことによって社会的な課題を解決し、すべての人々が豊かに共生できる地球社会の実現を目指しています。 Bangladesh、ネパール、インドの南アジアで、児童労働の削減支援、児童教育支援、地域防災支援、フェアトレードなどの活動を行っています。また、日本国内では講演会やイベントなどを通して、地球規模の課題への関心を高め、行動する人々をサポートする活動を行っています。

仙台会場のご案内

日本基督教団東北教区センターエマオ
 仙台市青葉区錦町 1-13-6 TEL 022-222-0990
 仙台市営地下鉄南北線「勾当台公園駅」より徒歩9分

